

すて〜じ通信



発行 平成22年11月25日 第 5号

〒052-0014

北海道伊達市舟岡町334番地9 あい・ぷらざ1F

社会福祉法人 北海道社会福祉事業団

胆振日高障がい者就業・生活支援センター すて〜じ

Tel / 0142-82-3930 fax / 0142-82-3933

E-mail / stage@dofukuji.or.jp

2010年も早いもので、もうすぐ年の瀬を迎えようとしています。

今年は、熱中症患者が多く発生した大変な猛暑の夏でしたが、秋の訪れもつかの間、一気に寒い日が訪れたり、急に暖かくなってみたりと、おかしな天候の繰り返しで風邪をひきやすくなっているようです。インフルエンザの季節も待ち構えているので、体調管理には十分に気をつけたいですね。

さて先日10月29日に厚生労働省がプレスリリース（記者発表）した「平成22年度 障害者雇用状況の集計結果」によれば、民間企業における雇用障害者数は34万2,973.5人で、実雇用率は1.68%と発表され、いずれも過去最高となっており、障がい者の雇用問題への関心の高さと、全国における障がい者就労支援の成果が伺えます。

失業率については、最近は持ち直しの動きが見られていますが、振り返れば経済危機以前からワーキングプアの存在は大きな社会問題であり、仕事と生活の調和の難しさが、以前からの課題となっています。経済が新たな成長に向かおうとする今こそ、もう一度雇用問題を振り返り、今後の行く先を考えるべき時に来ているように思います。

その取り組みとして、正規労働者・非正規労働者の二極化を解消するため、雇用政策研究会が働き方の改善を提言しており、「多様な正社員」の環境整備が始まろうとしています。この研究会の提言によれば、働き方の改善を後押しするような企業評価・企業行動の仕組みの構築が必要となっており、こういった整備によって障がい者雇用の実現に大きな効果を発揮するのではないかと、期待しているところです。

また、北海道保健福祉部障がい者保健福祉課が取り組んでいます「アクション2010」の登録状況ですが、企業サポーター221件、市町村サポーターは5件となっています（いずれも11月23日、ホームページ調べ）。

道の担当者によれば、道内各地域で登録申請が増えてきている状況とのことですが、今後とも登録への働き掛けをお願いしたいとのこと。皆様のお近くで障がい者の雇用に応援いただける方がいらっしゃいましたら、登録を呼びかけていただけたらと思います。

胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて〜じセンター長 大滝 敏

～平成22年度第2四半期（7月～9月）の実績報告です。～

登録者数	239人	身体障がい（10人）・知的障がい（207人） 精神障がい（13人）・その他（9人）
相談内容	相談支援総件数	432件
	就職件数	4件
	実習件数	11件
	職場定着支援件数	50件



研 修 会 報 告

平成22年度胆振日高圏域障がい者就労支援研修会

10月12日(火曜日)、平成22年度胆振日高圏域障がい者就労支援研修会を、苫小牧市民活動センター1階多目的ホールにおいて開催しました(西胆振地区障がい者雇用支援地域合同会議、東胆振・日高地区障がい者雇用支援地域合同会議、胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて〜じの共催)。

今回の研修では胆振日高圏域の就労支援事業所、行政、雇用事業所、特別支援学校、相談支援機関の方々など、総勢93名の参加をいただきました。

業務多忙の中参加していただいた皆様、また、お忙しい時間を割いて講師を快くお引き受け下さいました武田様、西陰様、高谷様、下山様、和泉様、本当にありがとうございました。今回の研修を通して、障がい者の就労支援の輪が広がり、より身近な地域で取組みが進んでいきかけになれば幸いです。簡単に研修内容についてお伝えします。

●講演Ⅰ「障がいのある人たちの地域移行・退院促進と就労への挑戦

～ともに働ける社会、ともに働ける環境づくりを目指して」

・講師 社会福祉法人 南高愛隣会 東京事務所 武田牧子氏

精神障がい者の退院促進・地域移行そして就労支援に関わった事例から感じたことや、退院促進・地域移行・地域定着そして就労支援の仕組みづくりについて、分かりやすく実践的な講演を頂きました。また、退院促進や就労支援に限らず、よりよい取り組みの実現のため「自分が持っている情報を更新する」という言葉がとても印象的でした。

●シンポジウム「ともに働ける社会、ともに働ける環境づくりを目指して」

・コーディネーター

★特定・特別医療法人社団 千寿会 多機能型事業所ピアチェーレ 西陰貞子氏

・シンポジスト

☆北海道緑ヶ丘病院音更リハビリテーションセンター

下山友章氏

☆医療法人こぶし柳町診療所

和泉雅子氏

☆社会福祉法人釧路のぞみ協会自立センター

くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターふれん

高谷さふみ氏

各シンポジストより「ともに働ける社会、ともに働ける環境づくりを目指して」をテーマに、現場での実践報告を頂きました。

皆様にはそれぞれ20分という短い報告時間になってしまい、大変なご苦勞をかけてしまいました。下山様からは「WRAP(元気回復行動プラン)」を中心とした実践報告と、和泉氏からは「ACT(包括型地域生活支援プログラム)」を中心とした実践報告、高谷氏からは精神障がい者の求職・就職状況や段階を追った支援の報告といった、どれも中身の濃いお話を聞くことが出来、大変参考になったシンポジウムであったと思います。

また、コーディネーターの西陰様と、講演Ⅰの講師武田様には適切な助言をいただきました。皆様本当にありがとうございました。

今回の研修において講師、並びにシンポジストの皆様からご用意いただきました資料は、ホームページへ掲載していますので、興味のある方は下記へアクセスしてみてください。

また、今回の研修会に続き2月に西胆振を会場に胆振圏域を対象にしました研修会を予定し、現在内容、会場等について検討している状況です。

詳細が決まりましたら改めて文書、ホームページ等でご案内させていただきますので、是非ご参加下さい。

ホームページへは



<http://www.dofukuji.or.jp/stage/other.html> です！



障がい者雇用支援地域合同会議報告

障がい者就労支援ネットワーク強化・充実事業 第2回西胆振地区障がい者雇用支援地域合同会議

9月22日(水)登別市総合福祉センターしんた21の2階会議室において、「平成22年度 第2回西胆振地区障がい者雇用支援地域合同会議」を開催しました。当日は、15の構成機関から合計22名の出席をいただきました。西胆振地区河原座長(西胆振心身障がい者職親会副会長)より開会の挨拶をいただいた後、行政報告としてハローワークむろらん専門援助部門の小林雇用指導官より、「ハローワークにおける就職支援」と題し、室蘭管内における障がい者の就職状況について詳しく説明・報告していただき、その後、企業側からの実践報告として、当会議座長のホテルロイヤル代表取締役河原文博様より、障がい者の雇用を始めて30年の経験から感じていることを話していただきました。

次に、就労移行支援事業所からの実践報告として、現場で就労支援に取り組まれています、社会福祉法人タラプ障害福祉サービス事業所 i-box の竹内様と、社会福祉法人伊達コスモス21 ディセンターフみだすの郡司様、特定・特別医療法人社団千寿会多機能型事業所ピアチェーレの佐藤様の3事業所3名の方々より、「企業就労を目指して～就労移行支援事業所の挑戦」というテーマで、実践報告をしていただきました。

それぞれに独自の取り組みを行っており、利用者いかにしてサービスを提供するのか等、課題を明確にし支援に取り組まれていることが報告からひしひしと伝わって来ました。

その後、北海道就労支援プログラム「アクション2010」の取り組み状況について、事務局より口頭での報告がされ、終了となっています。

限られた時間ではありましたが、ご出席いただいた皆様のご協力により、大変内容の濃い会議にして頂いたと思います。皆様、本当にお疲れ様でした。

今回は、12月に白老町にて東胆振・日高との合同地区開催を予定しています。年末の慌ただしくなる時期ではありますが、是非沢山のご出席を賜りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。



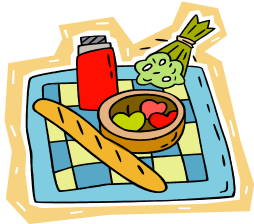
障がい者就労支援ネットワーク強化・充実事業

第2回東胆振・日高地区障がい者雇用支援地域合同会議

9月16日(木曜日)、日高町とねっこの湯会議室において、第2回東胆振・日高地区雇用支援地域合同会議を開催しました。

福原座長(苫小牧心身障害者職親会会長)の開会挨拶に続き、今回の会議では、事業主、支援事業所の実践報告を通して、それぞれが抱える課題、雇用した場合のポイント(就労継続の為の)等について意見交換を主題に行いました。北海道のみならず、全国的に先行きの見えない景気の悪化・低迷している中、厚生労働省から「心身障害者多数雇用モデル工場」に指定を受けている、株式会社木村クリーニング代表取締役の木村春夫様にご足労いただき、障がい者の雇用を通して感じることを永年の経験からお話をいただきました。木村様が現在課題としているのが、加齢による稼働力の低下があった場合に、雇い主側として、どのように本人のモチベーションを上げていくか、継続して働けるよう会社は何を配慮しなければいけないのか、それらを日々考えているそうです。簡単に離職勧告が有る中、送り出し側としては有り難い話です。続いて移行支援事業所のとりくみについて、社会福祉法人せらび就労支援センターまろにえの宮澤様、社会福祉法人緑星の里地域生活支援センターハーフタイムの島野様より、それぞれ実践に培われた経験を交えた取り組み状況が報告されました。送り出し側、受け入れ側双方の取り組みが理解出来、また新たな課題が見えた会議になったと思います。

前述しましたが、今年度最後の合同会議を12月に予定しております。年末ということでお忙しいとは思いますが、是非ご出席いただき有意義な会議にしたいと考えております。



「第2回在職者の集い」を開催しました！

10月20日（水曜日）伊達市カルチャーセンター集會室

今年度第2回目の「在職者の集い」を、さる10月20日（水曜日）午後7時から、伊達カルチャーセンター集會室を会場に開催しました。

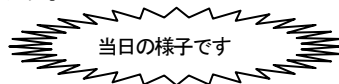
当日は単身アパート生活をされている方、グループホームで生活されている方等14名の参加がありました。

今回のテーマは暮らしに役立つお話として「食事について」を主題に、社会福祉法人陵雲厚生会サポートセンターひまわりで管理栄養士として日々入所者の食事に係わっています宇佐見圭孝様を講師にお招きし、日頃あまり気にしない（しっかり考えている方もいますが）食生活についてお話をさせていただきました。

参加された方々にはまず、自分の食生活・食習慣についてチェック表で確認し、それぞれの食生活について見直しをしました。

宇佐見さんのお話では、上手な食事の摂り方として、①食品群を知ろう～3つに分かれている食品群について説明を受け、偏らないで食べることでバランスの取れた食事になります②食事のポイントとして～食べ過ぎには注意！腹八分目でok!、動物性脂肪よりは植物性脂肪を③コンビニ弁当の活用術として～コンビニのお弁当はどうしても味付けが濃い物が多いので、塩分の過剰摂取が心配ですから、弁当を買うときにちょっと財布と相談して、野菜サラダや海藻サラダを合わせて買うなど、組み合わせ方も教えていただきました。生活の場面ではすぐに役立つ話として、参加された皆さんも熱心に耳を傾けていました。講演後も参加者から自分の食生活について報告したり、質問、感想が多く出され有意義な集いとなりました。

また、今回の集いで宇佐見様が用意された資料は、当センターのホームページにも掲載されていますので、興味のある方はのぞいて見ていただけたらと思います。



〈11月～12月の予定〉

11月

ハローワーク、支援事業所訪問活動
登別市出張相談窓口開設（11/18）

12月

・第3回雇用支援地域合同会議～白老町
※今回は西胆振地区と東胆振・日高地区
の合同開催です。

職場実習企業開拓員～今年度4月から当センターに配置されていましたが、都合により退職となりました。後任には10月より猪股 正寛（いのまた まさのり）が配置されましたので宜しくお願い致します。

〈自己紹介〉年齢は30代で伊達市に住んでいます。これから色々関係機関の皆様にはお世話になると思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

